

鈴木 亮 氏 学位審査結果の要旨

主査：上野 博夫

副査：螺良 愛郎、権 雅憲

大腸がんの先端治療を開発する目的にて、大腸がんの腫瘍組織に大腸がん幹細胞が存在するかどうか大きな研究テーマとなっている。申請者らのグループでは、これまで申請者らのグループが開発してきた、pSmad2/3L-Thr 抗体を用い、腸管上皮陰窩に存在する pSmad2/3L-Thr 陽性細胞の性質について解析を加え、これらが細胞周期休止期にある小腸上皮幹細胞の性質を有している事を明らかとしてきた。今回、申請者は azoxymethane (AOM)と dextran sodium sulfate (DSS)を投与による大腸がんモデルマウス（潰瘍性大腸炎合併大腸がんモデルマウス）を用い、pSmad2/3L-Thr 抗体によって腫瘍内に染色される細胞について解析した。pSmad2/3L-Thr 陽性細胞は大腸がん組織において非常に少数の細胞であり、また腫瘍組織の下層、中層に比べて上層に有意に多く存在しており、また免疫染色の結果 Ki67 陰性、 β -catenin 陽性、CDK4 陽性という性質を有していた。これらの所見は、pSmad2/3L-Thr 陽性細胞ががん幹細胞としての性質を有する可能性を示唆しており、今後の解析が期待された。以上の理由により、本研究は学位に充分値すると考えられた。